



Vol.42

RUNNER



イルミネーションがまぶしい季節になりましたね。キーンと冷えた空気も、駅前のムクドリの合唱も、冬のイベントだと思えば少しワクワク。忙しい年末年始ですが、心はポカポカ温かく過ごせますように！



RUNNER Vol.42 ~もくじ~

活動の現場 ··· 2

～On your side～
人間だけのものではない地球活動の現場 ··· 9

鳥の羽根の数式 ··· 11

第18回
特定非営利活動法人 野生動物救護の会
定期総会議事録 ··· 13

インフォメーション ··· 15

♦ 投稿、大募集 ♦

いつもRUNNERをご覧いただき、誠にありがとうございます。野生動物救護の会では、読者の皆さまからの声で誌面をより豊かにしたいと考えております。動物や自然に関するテーマで、皆さまのエピソードやご意見をお待ちしております！

募集要項

募集内容:

上記テーマに関する話、エッセイ、イラスト、写真など

応募資格:

『RUNNER』の読者の方ならどなたでも

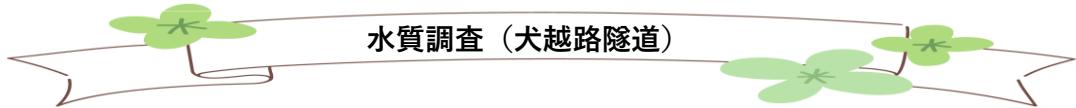
応募方法:

野生動物救護の会 事務局宛で、Eメール、または郵送で！

皆さまからの素敵なお手紙を、編集部一同心よりお待ちしております！
RUNNER 編集委員会

活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントに参加した方達がその報告をしています



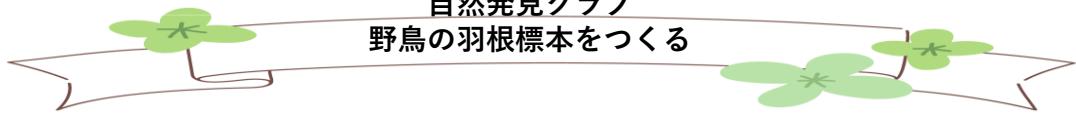
今年も丹沢大山ボランティアネットワークの水質調査が実施されました。野生動物救護の会が受け持っている場所は、西丹沢ビズターセンターから徒歩で2時間ほどのところにある犬越路隧道水場です。

5月20日に理事長含め3人で行ってきました。当日は天気も良く、絶好のハイキング日和でした。新緑の山々を眺めて、野鳥のさえずりを聞きながら坂道を登りつづけて、無事に水場に当直し、調査を行うことができました。また来年も実施予定ですので、会員の皆様にはメールでお知らせいたします。興味のある方は気軽にご参加ください。

遠藤順一



自然発見クラブ 野鳥の羽根標本をつくる



2025年8月23日、自然発見クラブとは自然環境保全センターが年に数回開催している自然を題材にしたワークショップ講座です。今年の8月の講座を野生動物救護の会が担当することとなり、野鳥の羽根標本つくりを行いました。

羽根標本の材料は、神奈川県が傷病鳥獣として保護して治療中に亡くなったムクドリと、秦野市の図書館の窓への衝突で死亡したムクドリ、合計6羽の羽根を使用しました。材料の羽根は、あらかじめ会のスタッフ数名が死体から抜き取って、きれいに洗浄・乾燥させて、用意しました。

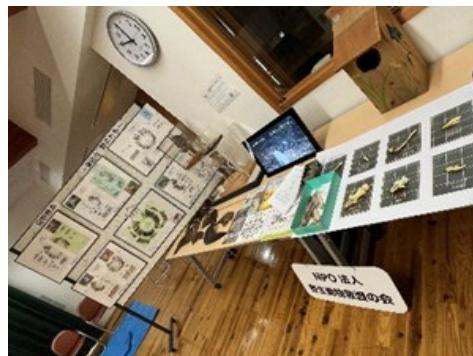
講座当日は、大人と子供合わせて11名が受講しました。初めに自然環境保全センター職員から自然発見クラブについてお話をあり、その後に会のスタッフが羽根標本をつくる目的や、野鳥の羽根の名称、鳥の体の測定方法、羽根標本の作成手順について解説を行いました。解説の後、受講者全員にムクドリの羽根と羽標本の台紙を配布して、実際に標本作成を体験してもらいました。羽根標本が作り終わった受講者は、コジュケイの体羽を使った缶バッジ作りにも挑戦してもらいました。

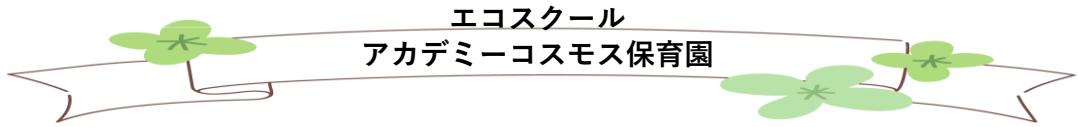
羽根標本作成中は、受講者から羽根の種類の見分け方や、野鳥の死亡原因などいろいろな質問がありました。実際に本物のムクドリの羽根に触れたことで、受講生の皆さんのが野鳥を身近に感じてくれて、野鳥への関心や興味を高めてくれれば良いと思います。

遠藤 順一

参加者及びスタッフから感想が届いています。

- ・参加された皆様が出来栄えにすごく感動しているのがわかって、良かったな～と思いました！
- ・今日の講座と意義と成功が孫（子供）の満足な顔を見て、確信しました。本当にありがとうございました。





令和7年10月15日、前年度のアカデミーアイさんに続き本年度はアカデミーコスモスさんにて行いました。

4~5歳の23名のみなさん、しっかりと着席して待っていてくれました。

大人気コーナーの動物クイズからスタート。

慣れ親しんだ動物図鑑の絵とはまた違って、実際に動画撮影されたリアルな映像にくぎづけ。アライグマのしま模様のしっぽを「トラねこさん！！」と子供たちの柔軟な回答には毎度はっとさせられます。

そのトラねこさんの物語、絵本にやーちゃんの大冒険へ。

ネコさんと鳥さんとの関係性が複雑なのか「どういうこと？」とツッコミがあり、解説を加えてもぱっとしない様子でした。理由を考察する必要がありますね。

休憩をはさみ、寸劇ゴミゴミマンへ。

ヒーローはイケメンに限るのか、反応がいまいちでしたので若手の力がほしいところです。

今回に限り、野生動物ではありませんが散歩中の犬とのトラブル防止のために注意喚起と正しいさわりかたをぬいぐるみを用いてレクチャーさせていただきました。

いよいよ、お待ちかねのフクロウのウイズリーくん登場で子供たちだけでなく先生たちも野鳥を間近にし、わくわくしておられました。積極的にさわりたい子、遠慮気味にさわれない子半々でした。

そんなウイズリーくんも人間社会で傷ついた野生動物のひとり。さまざまな原因で傷ついた野生動物たちのパネル紹介へ。

新たに追加されたソーラーパネルの写真になるとすぐさま「知ってる！！」「見たことがある！！」との声が。

メガソーラーや無用な開発によってクマをはじめたくさんの野生動物たちが住処や食料を根こそぎ奪られている現状を伝えました。秦野市のあちこちでも乱立しているソーラーパネルの光景は子供たちの目にも異様にうつっているのでしょうか。

野鳥があやまってひっかかるてしまうゴキブリホイホイとネズミ捕りシートは実物があったらよりわかりやすかったかなと思います。

以上、盛りだくさんの内容に長くかんじてしまったせいか、退屈そうな姿を散見しましたので次回への課題となりそうです。

佐々奈緒



厚木環境フェスティバル報告

10月26日(日)、厚木中央公園にて、環境問題を自分事として感じてもらうために『2025あつぎ環境フェア』が開催されました。朝まで降っていた雨も小康状態となり、会場には環境に興味のある人や何気なく立ち寄った人がブースを訪れ、環境活動団体、企業や大学などによる展示やワークショップを楽しんでいました。

私たち『NPO法人 野生動物救護の会』のブースでも足を留め、熱心に説明に耳を傾け質問や意見を述べる場面も多々あり、雨にもかかわらず活気に溢れました。足を留めてくれた人に救護された野生動物の多くが人間に依り傷ついていることを伝えることができればと願いながら・・・。

絵ハガキ、しおり、缶バッヂの売り上げと寄付合わせて5950円となりました。

田中和子



動物フェスティバル 神奈川2025 inいせはら ～共に生きる いつまでも～の活動報告

美しく紅葉が映える11月15日（土）、伊勢原市民文化会館周辺で動物フェスティバル 神奈川2025 in いせはらが開催され、動物と人の共生をテーマに、災害救助犬の実演や長寿動物表彰式展、講演会など様々な催しが行われた。

当会が出展したエリアでは、災害時における人と動物との共生をテーマにした展示が目立ち、ペット同伴の避難に関するクイズや準備品などのほか、災害救助犬とのふれあいブースもあった。また、獣医師会による犬の診察体験は来場者に人気があり患者役の犬たちの頑張りが微笑ましかった。

当会の展示ではバードストライクの野鳥被害に関する心を示す子供が多く、なかには自らの目撲体験を話したり、何度もブースを訪ね解説を聞く子がいた。チラシの“どうして？”というキャッチコピーへの注目度も高かった。

ほかには羽根標本に興味を示した人が自宅をねぐらにする野鳥の話をしてくれた。募金をする親子連れも多く、野鳥の羽根しおりや親子クイズを喜んで受け取った。アドリブでにゃーちゃんの絵本の読み聞かせが始まると足を止め聞き入っていた。

ペットに関する展示が多いなかで、当会の人災により被害を受けた野生動物の現状に来場者は深い意義を感じたようだ。

平賀千明



第46回 秦野市市民の日 報告

秦野市で、11月3日（月・祝）の文化の日にカルチャーパークで、午前9時30分～午後3時に市民が企画・運営する市民の日が開催された。雑貨やアクセサリー、農産物などの出店の他、各種団体や行政コーナーでのイベントやステージパフォーマンスショー、グルメフェスなどが行なわれた。この日は久しぶりの晴れで、会場は多くの家族連れでぎわった。

「野生動物救護の会」の参加者は5名。当会では、ブースに立ち寄って下さった方に、ブース内に設置したパネル展示した傷ついた野生動物の写真を使って、野生動物救護の普及啓発活動を行った。野生動物が傷つく原因には人為的原因もあり、私たちのちょっとした日常の心がけでそれを防ぐことが出来ることを説明した。合わせて用意したパンフレットを渡して当会の活動について説明した。自然環境保全センターでケガや病気で傷つき、保護された野生動物を救護し、自然に帰す活動と、自然に帰すことができない場合は、生涯にわたって飼育する活動をボランティアでお手伝いしていることを話した。私たちの活動に理解して頂き、募金して下さった。エデュケーションバード（ケガで自然に戻れない実物の鳥）の参加がなかったためか、立ち寄って下さった方は残念ながら以前より少なかった。この日は準備から、片付けまでと長丁場でしたが、参加されたスタッフの皆様お疲れ様でした。参加して大変さ、楽しさ、喜びを感じることができた。

小野



広畠小学校エコスクール報告書

実施日 令和7年11月18日（火） 10：40～11：25 45分間
場所 秦野市 広畠小学校
支援級（10名中7名の参加うち1名は最後のふれあいタイムのみ）
参加者 渡辺（優）、渡辺（郁）、安井、加藤、日野（敬称略）
秦野市環境共生課 佐藤さん、御代川さん

野生動物クイズ・羽根クイズ

みんな興味津々で、前のめりにクイズに参加していました。

アライグマ、ツキノワグマ、トビ、フクロウ、思ったよりどんどん動物や鳥の名前が出てきて、すごく楽しんでいる様子でした。特に羽根クイズが盛り上がり、結果、クイズは延長に。

にゃーちゃんの絵本朗読

こちらも、身近なネコの物語のため、みんな飽きずに聞いてくれていました。

途中、死んでしまった絵や血があるところは、反応を見ながら、すぐ次へ行くようにし調節しました。最後まで、飽きずに見ていてくれていた様子。

傷つく野生動物たちのまとめ

動物が傷ついている写真が多くあり、反応に心配しましたが、状況を受け入れている反応でした。子どもたちが実際に見聞きした話などを話してくれる場面もあり、興味をもって参加している様子でした。

ふれあいタイム

初めから、何か生き物がいることを感じていた子もいて、ウイズリー君の登場で、歓声！

ウイズリー君を出すときに、声と羽ばたきで一瞬びっくりするような子たちもいましたが、すぐに触れるの？触れるの？と興味津々。

触り方を教えてもらい、一人ずつ順番を待って丁寧に触ることができました。

まとめ

子どもたちの動物への関心が強いことを実感しました。

一人難聴の子がいたため、お話をどの程度聞けているかは分かりませんが、羽根を触るとき、ウイズリー君を触るときにすごく興味を示しながら触っていました。

触って楽しめるものをもう少し多くしてもいいのかなと思いました。

今回は、クイズが盛り上がり、時間が押してしまうほどでしたが、大成功だったと思います。

日野さゆり





ランナーの読者の皆様、お久しぶりです。長きに渡り拙い内容の文章でありながらコラム、いやエッセイ？を掲載させて頂いておりました。今回また依頼がありそれがとても嬉しく、また皆様とわざかながら繋がっている事も幸せであると感じました。いつものように決して深くはないものではありますが、今回は私自身の病気治療をしながら思ったり、今後の身の振り方をも見直す機会になりましたので、余り重く捉えずなるほどねといった具合にお読み下さいましたら幸いです。

今年の夏、、、その暑さといったら本当に酷かった。本来ならば一番快適である筈の4月半ばから梅雨入り前に連日の夏日や猛暑は地球の異常な変化に危惧せざるを得なかった。3年前から自分自身が悪性リンパ腫の指摘を受け、それでも可能な範囲で環境や動物たちに何か出来ないかと模索して治療を続けて来たものの、自分が考えるより難しい事を感じる様になった。

最初の治療は拍子抜けするほど楽で、記載するほど辛い事はなく7か月をかけて一旦終了となったが七沢にはほど近いセンターへ動物たちの世話は、野生動物はどんな感染症を持っているかわからないのでお手伝いに行くのはダメ、、自殺行為だと言われた。仕方なく日常をこなしていたらその3年後、定期検診で肺からの再発がわかりまた治療を行う事に。

最初に指摘されたその時とは違ってかなり辛い治療になりますと言われ6月初旬に入院。既に真夏日になり始めた時だった。感染症厳禁の個室のクリーンルームに入り治療の準備が始まった。そんな中、病室から外を見るとこの時期に飛来して来るツバメたちや雀、また鳩、カラスなどの身近な鳥たちは嘴をパカ～と開け呼吸に合わせて体を上下させている。

それを見るたびに思った。暑いのは人だけでは無いのだ。人間と違い、エアコンの効いた空間に逃げ込む事が出来ない彼らを見ていて毎日胸が痛んだ。温暖化は少なくとも動物が原因である事は殆ど無く人が作り出した物なのにと。かと言って過ごし易い空間や冷たい水、栄養となるご飯を揃えて待っていても来てくれる訳ではない。埃を吸い上げ外に逃がす換気が整った病室は長袖を着ないと寒いほどで、暑さを堪えている動物たちに申し訳ない程だった。人ばかりがこんなに守られている事が切なかった。7月末に退院して帰宅したあと、夕刻に建物の日陰の電線に2羽のカラスが仲良く止まっていたのを何度か見かけた。

暑いのは人だけじゃないよね、でも私だけではどうしようもなくごめんねと心の中で謝ったりもした。そんな事も含めて歯痒い事も多く感じた入院生活でもあった。



幸い治療はどうにか終了し退院したがまだまだ体力が落ち切った自分に出来る事など無く、動物たちは具合が悪くなったらどうやって乗り越えるんだ?と何度も思つただろう。入院前に北海道の釧路市へ飛び、斎藤、渡辺獣医師のいる釧路湿原野生生物保護センターを訪ねクラウドファンディングをして来た。私が何年も前に最初にそこに行つた時は両獣医師しかおらず、まさに孤立無援孤軍奮闘四面楚歌の如くお2人でセンターにいる子たちを守つておいでだった。その頃から僅かばかりの個人的な寄付をしていたのだが斎藤先生はそれに対してかなり躊躇う気持ちがおありの様で精神的に足踏みをされていた。人の好意を寄付という形で受け取る事に後ろめたさを感じている印象だった。しかし今はそのセンターがクラウドファンディングを募つてゐる。やっと決心して下さったんだ!と、本当に嬉しかったし安心したのである。

私は思う。希少種であろうが身近な子たちであろうが人との関わりや軋轢の中で傷つき苦しい思いをしている動物たちを放つておいてはいけないという事は皆で認識し共感し、少しの事でいい、人間の側からだけの見方をするのは間違つてると気付くのが必要ではないだろうか。その一つにクラウドファンディングという協力、仲間になるというやり方もある。

食物連鎖や輪廻転生は何も自然界だけではないと思う。食ロスが問われてそのコンセプトが根付き始めたり、SDGsが叫ばれて定着化する事は結局何らかの形で巡つて自分に還元するであろうし定期的に見直しを迫られる。決して蚊帳の外にある出来事ではないのだ。私が常に思う、地球は人だけのものではなく沢山の生き物たちがいてくれてこそ豊かになり潤い成り立つてゐるという事。そして人がそれを忘れなければこれからも沢山の動物たちとの共存が、平和という基盤の上に成り立つて行くに違ひないのだから。世界中で自然や環境や動物たちを守ろうとする人達がいる。ただそれ以上に開発や破壊をする企業や密猟者などもいる。私は死ぬまで守る人達の側でいたいし不条理に命をおとす動物たちを量産する人間の真逆の、敵でいようと思う。

常にコンセプトとして來た、言葉を持たない動物たちの声や叫びを捉えたい。

悪性リンパ腫という基礎疾患と共に生きて行かなければいけなくなつたが、そんな中でもやはり環境と生き物たちに思いを馳せて少しでも何らかの形で関わり行動に結びつけたいと思う。退院して約3ヶ月、ようやく日常がこなせる様になったこれからの自己への課題だと考えている。頑張るぞ!!(^^)

～On your side～

人の為だけではなくこの世の生き物たちの全てを想つて。

そして病氣になってこそ改めて感じた地球上の沢山の命の大切さを生涯持ち続けたい。さらに私に命と人生を下さった医療チームの皆様への心からの感謝の想いも込めて。常に貴方の、動物たちや環境の立場に立つて。



伊熊



羽根標本作りは、鳥類特有の構造について実物を通して学ぶことができる機会をしてくれます。その作業を通して、一本一本の羽根の色や形、独特な模様だけではなく、風切羽のように飛ぶために重要な役割を果たす羽根のつくりや、体の部位によって羽根の役割が異なることを視覚的に理解できます。また、作成した羽根標本は、種の同定や、その地域に生息していた種の記録として、重要な学術資料となります。剥製や骨格標本と併せて羽根の標本を保管することで、その鳥の生態や形態に関する総合的な理解に役立ちます。

そんな羽根標本を作っているときに、羽根の並べ方をどうするか悩みます。学術標本としては、種の同定と記録を最優先するため、各々の羽根の部位と種別を明確にする整理が基本です。海外のwebサイトなどでは、羽根を一列に並べたタイプの標本をよく見かけます。羽根の長さや形の比較をするのに良い配列方法だと思います。しかし、ミズナギドリのように翼が長くて、次列風切羽根の枚数が多い種類では、定型の台紙に収まりきらないので困ります。決まったサイズの台紙に収まるように曲線に沿って羽根を並べる場合もあります。風切羽根や尾羽根を鳥の体の部位に合わせて配置すると、もともと羽根が付いていた位置も解るし、デザイン的のきれいに見えます。

今年の羽根標本教室では、ムクドリの羽根標本を作りました。このとき使用した台紙には、ムクドリの翼の骨格イラストを描いて、羽根が付いていた場所に合わせて並べてみました。すると、なんだか、とっても良い感じでした。もしやと思って翼の部分の面積の縦横比を計測したら約1.5でした。残念・・・、黄金比ではありませんでした。黄金比は、最も美しいとされる特別な比率のこと、縦と横の長さの比が約1:1.618になります。パルテノン神殿などの建築物、モナ・リザのような美術作品、ペプシコーラのロゴマークのような現代デザインなど、様々な場所で調和と美しさの象徴として用いられています。人工物だけではなく、ヒマワリの種の配列やオウムガイのらせん構造など自然界の産物にも多く見られることが知られています。

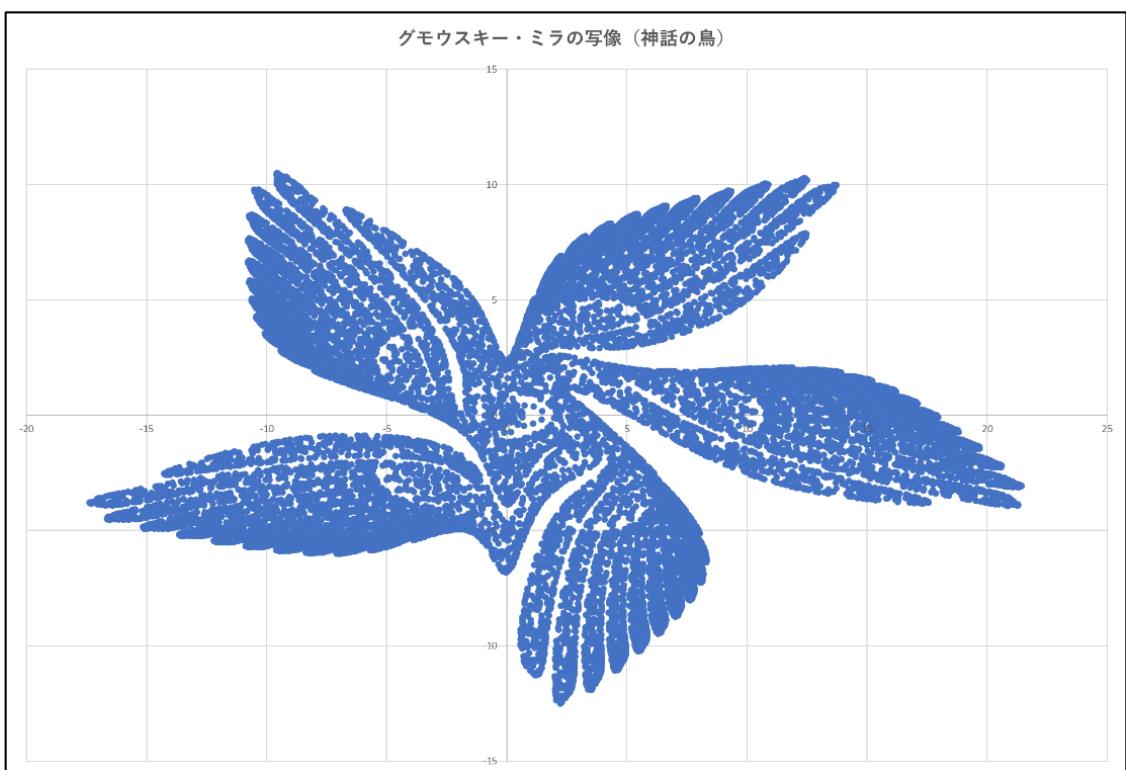


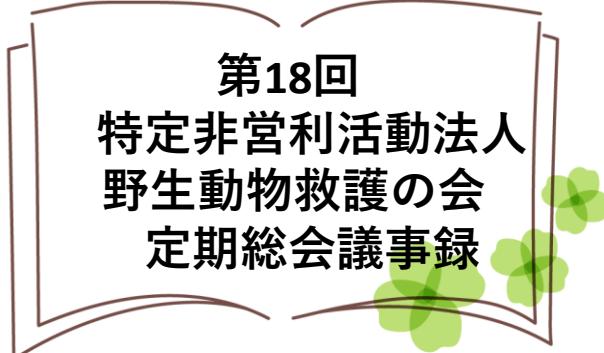
多くの科学者たちが、さまざまな自然現象を数学によって記述しようと試みてきました。例えば、アルキメデスのテコの原理、ヨハネス・ケプラーの惑星の運動に関する3つの法則、アイザック・ニュートンの力学に関する3つの法則など、数式を使って書き表された自然現象の例には、事欠きません。そして近年になってコンピュータが登場したことにより、数理モデルを解いた結果をコンピュータグラフィックスで表現する手法が加わりました。

この手法によって描かれたコンピュータグラフィックスに中に、鳥とは全く関係ない自然現象から作られた数理モデルなのに鳥の翼としか思えないような美しい写像を作り出すものがあります。それは、グモウスキー・ミラの写像として知られているストレンジ・アトラクタの一種です。グモウスキーとミラは、加速器や蓄積リング内での荷電粒子の不安定性についての研究から、荷電粒子の横方向の運動を表現するための数理モデルをつくり、1980年に著作の中でこの写像とその計算結果を記しました。グモウスキー・ミラの写像はパラメータを変えることで、ストレンジストレンジ・アトラクタの形が変化することで知られています。特に、鳥の翼のようなアトラクタは有名で、ミラはそのアトラクタを神話の鳥(mythic bird)と名付けました。

この世界には、自然が作り出した美しいものや神秘的な光景がたくさんあります。野鳥の翼の形や羽根の模様も、そんなものの一つです。長い進化の過程で、こんなにも美しく、機能的なものが生み出されたことは、奇跡としか言いようがありません。そんな鳥の翼を描く数式が荷電粒子の運動モデルの中に隠されていることも神秘的に思えます。

遠藤順一





第18回 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 定期総会議事録

6月に実施した定期総会の議事録を掲載いたします。参加者からは、昨年度の総括や今年度の事業内容について、多くの貴重なご意見をいただきたくことができました。

- 1、日時 2025年6月14日(土) 13:30～14:30
- 2、会場 自然環境保全センター レクチャールーム
- 3、総正会員 53名 出席者 10名 委任状 36名
- 4、議題
 - (1)2024年度(令和6年度)決算報告及び会計監査報告の件
 - (2)2025年度(令和7年度)活動予算の件
 - (3)2024年度事業報告の件
 - (4)2025年度事業予定の件
 - (5)役員改選
 - (6)その他

5、議事経過及び結果

定刻に至り、議長の遠藤氏が、本日の定期総会は定員数を満たし有効に成立している旨を述べて開会を宣言した。

(1)2024年度決算報告及び会計監査の件

(2)2025年度活動予算の件

田中氏より2024年度決算報告(資料:貸借対照表・収支計算書・財産目録)を報告、会計監査報告を遠藤氏が行い、続いて2025年度活動予算(案)を田中氏が報告。

(3)2024年度事業報告

2024年度の事業報告→安井氏

(4)2025年度事業予定

2025年度の事業予定→安井氏

問 探鳥会及び野生動物痕跡調査講習会は今後活動の予定はあるのか

回答 探鳥会は要望があれば実行、講師がはぎわら氏(野鳥の会藤沢支部所属)坂本氏などを予定。ただし、参加者が集まらないと開催できない。案内しだい。

痕跡は中止。

問 はだのエコスクール スタッフ不足について

回答 広く会員等に協力を求めて普及啓発を続けたい

問 救護の会との連絡イベントのお知らせはどうしているのか。

回答 会員へのメール配信及びHP掲載を行っている。メール配信が届かない人へは再連絡

問 現在使用しているブログが間もなく終了。

回答 引っ越し予定。完了次第連絡

問 保全センターへのレントゲンの寄付について

回答 中古で50～100万円程度で検討する

(5)役員改正

理事・会計は引き続き継続。

会計監査 神崎氏から遠藤氏へ変更。

(6)その他

各チーム活動の報告

- ・巣箱報告 日野氏

フクロウの2025年繁殖記録 3/20 抱卵開始 4/20 ヒナの姿 4/30 ヒナ2羽確認
5/16 1羽目が巣立ち 5/17 2羽目巣立ち 沢蟹を食べる動画 3年連続繁殖 同じペアかどうかは不明

- ・2024年秦野市立図書館衝突調査報告 渡辺氏

2009年より今年で17年目 痕跡痕総計714件 死体回収総計 177件

- ・足環プロジェクト報告 渡辺氏

2013年より開始。総計170件 目撃・再保護記録 11件

- ・痕跡調査報告 遠藤氏

丹沢大山自然再生委員会調査・研究助成金を活用して3年目

保全センター 野外施設にカメラ設置

厚木市で設置の電気柵（サル除け）移動している野生動物を調査

サルは網を上ると感電している様子

イノシシ・シカは関係ない様子

伊勢原・厚木の市境は点検がまめにできていない。

穴が開く→管理用のドアの下を掘り返して行き来している。

調査後に市役所へ報告。塞ぐと縄ののれんの鎖を動物がくぐらない。

3年目の今年は防獣センサー（光及び音）を使用。イノシシ・タヌキ・アライグマは逃亡。

シカは反応なし。不思議な生態。刺激を変えて試してみる。

議長が以上を持って第18回定期総会において全ての議事を終了した旨を述べて閉会した

2025年6月17日

特定非営利活動法人 野生動物救護の会

議長 遠藤 順一

書記 渡辺 優子

インフォメーション

イベント・企画展示

① 自然発見クラブ 身近な野鳥のための巣箱づくり

日時：令和8年1月24日（土）

場所：神奈川県自然環境保全センター 1F

スタッフ募集しています！

② 第25回 さがみ自然フォーラム

日時：令和8年2月12日～2月16日

場所：厚木市 アミューあつぎ5F あつぎアートギャラリー

衝突調査

① 秦野市立図書館衝突調査

日時：毎月最終金曜日

場所：秦野市立図書館

救護の会 ブログ“始まっています！”

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景（M project）、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会HPトップページの「救護の会ブログ始めました！」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>

緊急インフォメーション

熱い仲間、大募集

小学校や幼稚園・保育園での環境教育と一緒に盛り上げてくれるスーパー助っ人を大募集集中です！「楽しい！」を創る側で体験してみませんか？担当してもらう可能性のある業務内容は先生役、道具作り、写真係などなど。未経験でも全然OK！先輩スタッフが丁寧に教えます♪環境教育を最高にしたい！って気持ちがある方、ぜひ飛び込んできてください！詳細は事務局まで！待ってます



編集後記

あっという間に令和7年が終わろうとしています。今年も人と野生動物たちとの関係について考えさせられる事柄がたくさんありました。彼らとの問題について、ベストな答えを出すことが難しいのは分かりますが、国は解答を急ぎ過ぎるようを感じています。そしていったん方向が決まると、ひたすら突き進んでしまうのが人間の悪いところでもあります。行き過ぎてしまわないことを祈るばかりです。

答えの見えない困難な状況に直面した際、性急に結論を出さず、その状態を受け入れ、耐え忍び、深く思考する能力をネガティブ・ケイパビリティと言います。すべての生き物が心身ともに満たされた、ストレスのない良好な状態を持続的に享受できる世界の実現のために、考え続けなければならないのは、私たち人間の役割だと思います。

☆★入会へのお誘い★☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。どなたでも活動に参加いただけます。

★一般会員：年会費2,000円

★学生会員：年会費1,000円

私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています。

★賛助会員：年会費 法人一口5,000円/個人一口3,000円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座：00270-0-47040
名義：特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月：2025年12月 発行：特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話：0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086 番地の4 ホームページ：<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 RUNNER編集委員会

